

中している様である。

同様にひざら貝類は地点ルー 4.5 に集中的に分布し、端脚類は地点ヌー 3.2 にのみみられた。

二枚貝ではヒメニッコウガイ・リュウキュウザルガイ・クロフトヤマガイ・カワラガイなどがよくみられた。

巻貝ではオハグロガイモドキその他がいた。

2-3. マクロベントスの分布

方 法

測線に沿って幅 1 m の範囲を潜水観察し（陸上に出た部分は肉眼的に）、そこにいるベントスの個体数を算定した。調査時は測線に沿って 10 m 毎を 1 区画としたが、ここでは測線全体を一括して扱った。測線の長さ (m) × 1 m が調査面積となるので、各マクロベントス個体数をそれで除して 1 m² 当りの個体数密度で表わした。

結 果

表 4 のように最も広く分布していたのはヒメジャコで次にニセクロナマコであった。

量的にもニセクロナマコは多く漁業の対象にならないので自然の分布状態を比較的表わしているといえよう。

ここで漁業の対象となるのはヒメジャコとシラヒゲウニであるが、ヒメジャコは付着基質の量に分布が左右される様である。従って測線ハより測線ワの方が多く様であるが、ワの方が付着基質が多かったので測線ハでは保護水面管理の効果が上っているといえよう。同様に漁業対象種であるシラヒゲウニでも効果が上っている様である。

表 4. 測線別のマクロベントス密度 (個体/m²)

種 類	測線地点								
	ハ	ニ	ト	ワ	チ	リ	ヌ	ル	ヲ
ハナピラダカラ		many							
マキガイ SPP.					many				
ヒメジャコ	0.185	0.040	0.110	0.190	0.017	0.040		0.022	0.085
イワカワハゴロモガイ							0.002	0.008	0.005
アナジャコ SP.	0.120	0.040		0.005					0.128
テッポウエビ SPP.		0.005			0.017				0.015
ヤドカリ SPP.		many			many				
カザミ SR.									0.003
カスリモミジガイ								0.035	
ヒトデ SP.									0.003
シラヒゲウニ	0.020						0.007		
ナガウニ	0.030	0.020				0.003			
ガンガセ		0.005							
ニセクロナマコ	0.095	0.135	0.110	0.190	0.277	0.318	0.031		
アカミシキリ					0.033	0.088			
オオイカリナマコ	0.005		0.003						
シカクナマコ	0.005								
トラフナマコ					0.003				
フタスジナマコ						0.003			